



宇城市長 阿曾田 清

教育・健康・環境の3K政策の状況

新市になって、新政策として3K（教育・健康・環境）政策を実施してきました。3年間それぞれの担当の努力により、素晴らしい成果を挙げてくれました。そのことを紹介します。

教育においては、「国際理解教育特区」や「学校二学期制」は子ども先生も保護者にも、大変好評だと聞いております。英会話は楽しいという生徒が9割、二学期制は授業に余裕ができたとの声も聞きます。

国は平成21年度より義務課程に英会話を導入する方針が出されました。宇城市が国の取り組みより先駆けていることを裏付けるものであります。さらに、全国からの視察が平成19年度だけで30件もありました。全国に宇城市の教育に対する取り組みが注目されている証拠であります。

次に健康づくりです。全国で

も初めてのMRI無料検診の成果はどうだったか検証してみました。7500人あまりの検診を実施中ですが、受診者に対するアンケート調査の結果、受診後健康意識が変わったという回答が71%。そのうち、生活習慣の改善を行っている人は30%となっております。

MRI検診により、健康づくりへの「きっかけ」となり「自分の健康は自分で」という主体的な行動が起きてきたことにより、将来の医療費の抑制が期待できるものであります。

次に、環境であります。生活環境の推進としては、コンテナ収集を平成19年度から全市で実施し、資源ごみのリサイクルが大きく進みました。現在、生ごみのリサイクルも実験中であり、バイオマス（※1）への取り組みが秒読みに入ったと思っております。ゼロエミッション（※2）の実施を目指しましょう。

自然環境においては、環境保全隊などの各団体や地域の人々が一緒になって、きれいなまちづくりが行われています。川や海の清掃、里山づくり、つわぶき街道（小川町日岳）の整備などが進み、今年ハイビスカス通りが計画されております。これからは、地球環境にも目

を向けた取り組みも必要となりますが、まずは市民一人一人の理解と認識が大事なことであります。その点からも宇城市と他市の違いが徐々に現れてきつつあると考えております。

昨年の暮れ、5回にわたって「市の現状と将来の方向」というテーマでセミナーを開催しました。若手職員を中心に274人が参加しました。

その中で、「3K重要政策を担当している人には、過大な責任が発生しており、ご苦労を掛けます」と言ったことに対して、「市長、仕事が楽しくなりまし

た」と答えてくれたことは大変うれしく、その日風邪気味でありましたが一気に治りました。「仕事が楽しい」とこの言葉にどれだけ勇気づけられたか、市長になって良かったと感じた瞬間でした。

※1 再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。

※2 廃棄物の再利用をすることで、社会全体で廃棄物排出ゼロのシステムを構築しようとする目標のこと。

※平成20年4月の市長談話室は4日金の予定です。参加ご希望の方は、総合政策課（☎321111）へ3月21日（金）までお申し込みください。

市民レポートの目

心の拠り所（JUN）

瑞穂 その

三角町郡浦にある肥後三宮郡浦神社、前川あけみ宮司の一日は朝のお勤めから始まります。午前5時起床、朝拝をすませた後、境内の掃除をされます。また、登校中の子どもたちに「おはようございます。行ってらっしゃい」との声掛けも日課の一つで、元気な子どもたちの顔を見ると安心するそうです。

その後、自宅へ帰り家事、その他を終え、再び神社へ行き夕拝のお勤めをします。この間に、予約の神事を行うなど多忙な一日を送っておられます。

ある日、社会科の学習で神社を見学に来た子どもが、手水舎の水槽に入れてある白い陶器の「ナマズ」を見て、不思議そうに「おぼちゃん、どうしてナマズが入っているの？」と聞いたそうです。その問い掛けに前川宮司は阿蘇神話について話をされたそうです。

「昔、神武天皇の孫にあたる健甕龍命（タケイワノタツノミコト）が九州を治めるため、阿

蘇に来られました。そのころ阿蘇谷や南郷谷は広々とした湖だったため、その水を流して開拓しようと考え数鹿流（すがる）の地をけり、湖の水を流したそうです。ところが、湖の主であるナマズが「この水は流させない」と言つてせき止めてしまいました。でも、健甕龍命の切なる願いを聞きナマズはあきらめて川を下つていきました。そして、この地は豊かな土地となり、阿蘇地方では、今でもナマズは守り神としてあがめられています。」

この話を子どもたちは興味深く聞いていたそうです。また、手水舎の水槽に「心洗い」と書いてあります。これは、心をきれいにしてお参りをするということだと話されたそうです。それから、水槽の中に手を入れたり、泥遊びをしたりする子どもはいなくなつたそうです。

郡浦神社は、阿蘇神社三摂社の一つとされており、800年以上も続いている由緒ある神社です。

前川宮司は、神職として20数年務められ、女性ならではの心遣いで神社が住民の絆になるよう頑張っておられます。32年間途絶えていた流鏝馬（やぶさめ）



数年ぶりに復活した流鏝馬

を10月9日の祭りに、地域住民一緒になって復活させ盛大に行われていました。

また、初詣の人々に甘酒を振る舞い、子ども祭りのちまきなどいろいろなアイデアを生かして取り組んでおられます。そして自分が知っている神社の由来、正式な作法等を語り継ぐ中で、氏子の皆さんが神事に関心をもち、伝統を守ることの大切さを感じてもらえたらと願っておられます。

昨今の社会の変化は目まぐるしいものがあり、地域のつながり、人と人のつながりが希薄になつてきています。地域住民の減少や少子化の流れが進んでいる今、地域の歴史や文化を受け継ぐことにより地域の輪が広がることを願いつつ、郡浦神社を後にしました。

派遣職員の見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は（株）電通の内富裕さんです。

主演・46億歳 地球

今から約40億年前、地球上に生物が初めて誕生して以来、進化してきた生物は、現在、3000万種とも、それ以上とも言われています。

しかし、急激な環境破壊により毎年、約4万種の生物が絶滅するなど、地球の歴史始まって以来のスピードで、多様な生物が失われています。では、私たち人間は、多様な生物が失われることにより、どのような影響を受けるのでしょうか？

地球上の生物は、誕生から進化の歴史を経て、さまざまな環境に適応してきました。長い歴史の結果、生み出された生物の多様性（遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性）は、それ自体として尊重すべき価値を持つものです。

また、その多様性により、エネルギーや物質を循環させて地球環境を維持し、私たち人間の生存にとって欠かすことのでき

ない生態系のバランスを持続させているのです。

しかし、温室効果ガスの排出量を大幅に削減しなければ、地球上に存在する生物の4分の1が、温暖化により2050年までに絶滅するという調査結果が出ています。それは、私たちの生存そのものを脅かすということを意味しているのです。

これまで、環境問題に対しては、危機感もなく、「自分ひとりを取り組まなくても関係ない」と思っていた人がほとんどではないでしょうか。私もその1人でしたから。

宇城市では、昨年、宇城市総合計画「自然と共生するエコタウンの構築」の実施計画として宇城市環境基本計画が策定されました。これは、環境問題に対する市民行動指針でもあり、この重要性はお分かりいただけると思います。

2008年1月に公開された映画「earth（アース）」を撮った人たちは「地球上で最も美しいものを目にする、これが最後のチャンスである」と言っています。豊かで安心して生活できる未来を築くため、地球が美しくあり続けるためにも、私たち1人1人が助演として、生命の大切さについて考えてみませんか？

アレキサンダー・トウイグ先生の

日本つれづれ日記

「動物保護について」

今回は動物の話をしたと思います。

南アフリカには野生の動物、飼育されている動物、どちらもたくさんいて、動物の世話をすることは私たちにとつてとても重要なことです。また、野生の動物は、飼育されている動物とは違う扱いをしなければなりません。

野生の動物は仲間と共に野生の中に放たれなければならず、ペットのように檻の中に閉じ込めてはいけません。このことを理解するのは、とても大切なことです。

きれいだから、面白いからという理由でめずらしい動物や野生の動物が良いペットになると思っている人がいますが、それはとても残酷なことです。野生の動物は野生の中で自由に暮らす必要があります。猿を例にしますと、赤ちゃんの猿はかわいく、良いペットになると思っている人は多くいますが、大切な母親や家族からわが子を



奪うのは残酷なことです。

猿が成長する上で人の手によって世話をされていることは大きな問題になります。一方、飼育されている動物は野生動物のように扱うべきではないのです。ペットは人が気を付けて世話をしなければ生きられないので、適切な世話をしなくてはなりません。

飼いは正しく面倒を見て、世話をする責任があります。もし、あなたがきちんと世話ができないのなら、何も飼わない方がいいということです。

南アフリカでは動物の権利と保護を真剣に考えています。それは、とてもたくさん種類の動物がいるからです。他の地域にも素晴らしい動物がたくさんいます。私は皆さんにベストを尽くして、すべての動物の保護を手助けし、世話をすることを奨励したいと思っています。